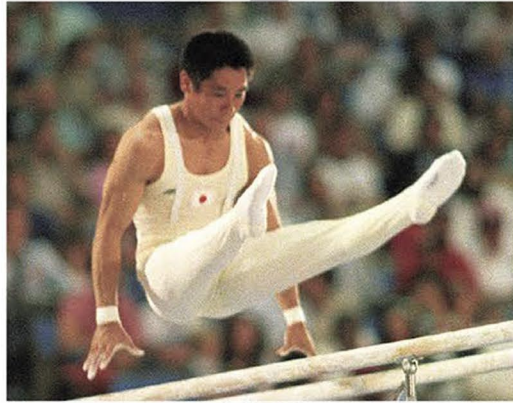


東京五輪がやる⑤

冬の時代支えた具志堅幸司

「体操ニッポン」の系譜



第23回ロサンゼルス五輪。体操男子個人総合、具志堅幸司の平行棒の演技=1984年8月2日、カリフォルニア大ロサンゼルス・ポリー・パビリオン(写真提供:共同通信社)

ンサートにも足を運んで「見せる演技」の勉強に励んだという具志堅は、ロサンゼルス五輪で地元米国のピーター・ビドマーをわずか0.025点差で逆転し、72年ミュンヘン五輪の加藤沢男以来、日本勢として3大会ぶりの個人総合優勝を果たした。

当時はパソコンなどない時代。有力選手の見ながら手元の電卓で得点を計算していたが、6種目を終わって具志堅が勝っていた。計算違い

1984年夏のロサンゼルス五輪の取材では体操競技を担当した。その年の5月、ソ連(当時)の五輪ボイコット騒動で私は早朝にたたき起こされ、大会まで激動の日々が続いた。だが、皮肉なことにソ連勢がいなくなったことで「体操ニッポン」に金メダルの可能性が大きく開けることになった。

1979年の世界選手権でソ連に王座を譲った男子の日本は、80年のモスクワ五輪をボイコットしたこともあり、ライバルソ連に水をあけられていた。その厳しい時代をエースとして支えたのが具志堅幸司である。演歌歌手のこ

をしたまま速報を早まれば、誤報となってしまう。緊張の瞬間だったが、表彰式の準備で真ん中のポールに日の丸が用意されたのを確認して第一報を東京に送りこんだ。

日本の体操は、56年メルボルン五輪の男子鉄棒で小野喬が初めて金メダルを獲得。「鬼に金棒、小野に鉄棒」と言われた得意種目だった。続く60年ローマ五輪では悲願の男子団体総合初制覇手先、つま先まで神経を行き届かせた

ロスで個人総合僅差の逆転「金」

「美しい

たって維持することになった。64年東京、68年メキシコ、72年ミュンヘン、76年モントリオールと合わせ五輪5連覇の偉業を達成した。小野喬からエースの座を引き継いだ遠藤幸雄が東京五輪で日本勢初の個人総合Vに輝き、さらに加藤沢男がメキシコ、ミュンヘン五輪と個人総合で2連覇して日本の強さは頂点に達した。エースだけに限らず、メンバーは多士済々だった。床運動の相原信行、つり輪の早田卓次、「ヤマシタ跳び」の山下治広、「ムーンサルト(月面宙返り降り)」で一世を風靡した塚原光男、メキシコ五輪の種目別で3種目を制覇した中山彰規。メルボルンからモントリオールまでの6五輪で24個もの金メダル(団体総合5、個人総合3、種目別16)を量産した。

そんな栄光の時代にも陰りが見え始める。具志堅の84年五輪制覇の後には、長期低落傾向に歯止めがかからなくなった。92年バルセロナ五輪の団体総合銅メダルの後はメダルも取れない時代に入った。96年アトランタ五輪は団体総合で10位に終わった。メダルはおろか入賞さえできない屈辱的な敗戦だった。続く2000年シドニー五輪の団体総合は4位と、あと一歩でメダルに届かなかった。

そして迎えた04年アテネ五輪で、見事な復活を遂げた。3大会連続の代表

「体操」は世界トップを長期にわた

となったベテラン塚原直也(父は塚原光男)やエースの富田洋之らの活躍で7大会、28年ぶりの金メダル奪回に成功した。着地をピタリと決め、ライバルを圧倒した。08年北京五輪、12年ロンドン五輪では中国に覇権を譲ったが、その中から内村航平という逸材が育ってきた。19歳だった北京で個人総合銀メダルに輝き、次のロンドンでは日本勢で28年ぶりの五輪個人総合チャンピオンとなった。種目別に強いスペシャリストが幅を利かせるようになった近年の体操界で、6種目に高いレベルで技をそろえるオールラウンダーが「美しい体操」の伝統を守った。16年リオデジャネイロ五輪では、白井健三という新たな才能が加わった充実したチームとなり、3大会ぶりの団体総合金メダル。内村は個人総合で2連覇を果たした。

ことし30歳になった内村はけがに悩まされ、4月の全日本個人総合選手権では予選落ちとなった。地元東京での五輪を来年に控え心配な状況。そのカムバックを折ると同時に、若い選手への奮起が望まれる。(後藤英文)

後藤英文 ●ごとう・ひでふみ

スポーツジャーナリスト。共同通信社で初代スポーツ専門特派員として1985年秋から2年間、ニューヨークで勤務。MLBワールドシリーズやW杯サッカー、NFLスーパーボウルのほか、夏の五輪などを取材。2013年から5年間、びわこ成蹊スポーツ大学の教授を務めた。

体操ニッポンの団体総合、個人総合優勝一覧

年	種目	個人	団体
1960年	ローマ	金	金
1964年	東京	金	金(遠藤 幸雄)
1968年	メキシコ	金	金(加藤 沢男)
1972年	ミュンヘン	金	金(加藤 沢男)
1976年	モントリオール	金	金
1984年	ロサンゼルス	金	金(具志堅幸司)
2004年	アテネ	金	金
2012年	ロンドン	金	金(内村 航平)
2016年	リオデジャネイロ	金	金(内村 航平)